

# ◆四谷大塚 学校参観のご案内◆

学校参観は受験校選定にあたって、施設や生徒活動の参観、各中学校入試担当者との質疑応答などを通じて、その学校の実像を定かにしていただくことを目的に、四谷大塚が独自に実施しております。

ご参加にあたっては下記の注意点、ご留意いただきたい内容をご一読いただきますようお願い申し上げます。

## －ご参加にあたって－

- 1 説明会・施設見学・授業参観途中での退出・雑談はご遠慮ください。また、携帯電話の電源はお切りくださいますようお願い致します。小さなお子様の同伴もなるべくご遠慮ください。（表記の実施時間は説明会・施設見学・授業参観等の予定時間です。当日は進行状況により、終了が若干前後する場合がありますが、予めご了承ください。）
- 2 どの学校にも駐車場は用意しておりません。自動車での来校は、学校側、近隣にご迷惑をおかけすることになりますので、固くお断りいたします。（通学を想定し、公共の交通機関をご利用いただき、通学路の参考になさってください。）
- 3 各校説明会場ではエアコンを使用する場合があります。個人差により寒く感じることもありますため、温度調節のしやすい服装で参加されることをお勧めいたします。（エアコン設備がない場合、節電により使用ができない場合がございます。予めご了承ください。）
- 4 スリッパ（上履き）が必要な学校もございます。その際は下足入れもお持ちください。

## －お申し込み方法－

四谷大塚のホームページ (<http://www.yotsuyaotsuka.com>) からお申し込みください。

申し込み締め切りは各学校の学校参観実施日の3日前までになります。

※会場の関係から定員を設けている学校もございます。お早めにお申し込みください。

※当日は、開始時刻までに直接お集まりください。

※この「学校参観」についてのお問い合わせは、四谷大塚各校舎までお願い致します。学校への直接のお問い合わせはご遠慮ください。

四谷大塚では、多くのご父母の皆様に、実際の学校の姿に触れ、学校への理解をより深めていただくことを目的として、毎年「学校参観」を実施しています。

「入試」は学校が入学させたい生徒を選ぶ場ですが、この「学校参観」は我が子を6年間（場合によつては10年間）託すのにふさわしい学校かどうかをご父母の皆様がご自身で見極める場としてください。

秋以降「学校主催の説明会」が数多く実施されますが、学校によっては混雑や日程の重複などが予想されます。今回の「四谷大塚主催の学校参観」に学年を問わず、ふるってご参加ください。

それでは、学校参観の「見どころ・聞きどころ」について簡単にご説明いたします。

## －はじめに－

教育内容、進学実績、通学時間などは志望校選択における重要な要素であることは言うまでもありません。しかし、それだけでは学校選択の決め手となる十分な情報にはなり得ません。どうしても自分の目で見て、自分の耳で確かめた「生の情報」が必要となってきます。

各中学校の先生方のお話や対応の仕方、伝わってくる熱意、在校生の様子などから得る情報は測り知れないものがあります。どんなに書面ですばらしいことが書かれても、それらは実体を伴ったものでなくてはなりません。先生方や生徒の様子からそれらは自ずと見えてくるものです。その学校がどのような教育を実践しようとしているのかをぜひご自分の目と耳で確かめてください。

また、より有意義な説明会とするために「ご家庭の教育方針」を予め明確にしておくことが大切です。中学受験を志し、学校選択に際しては何を重視するのか。予め見るべきポイントを絞っておくことで、多数の学校参観に参加した際にその違いがはっきりとしてくるはずです。

## －教育内容－

教育理念や教育方針がご家庭のこんなふうに育って欲しい、という想いと合致するかは最も大切な部分です。通常、校長先生が話されますが、プロテstant系の学校ですと牧師さんのお祈りから始まる場合もあります。ここで、いわゆる学校のカラー（校風）や学校全体の方向性のようなものが見えてきます。私学では、校長先生の考え方や方針が学校全体に大きな影響力を持っていることも少なくありませんので、注意して聞いておきたいところです。校長先生の説明によって、進学指導に重点がおかれてているのか、しつけに重点をおかれているのか、また宗教系の学校の場合、宗教行事に熱心なのか、などが見えてくるはずです。この時点で「この学校は自分の子どもの個性や実力を十分伸ばしてくれるのかどうか、子どもが成長できる環境なのか」について検討してみてください。

続いて、教頭先生や教務主任の先生から、カリキュラムの特色やクラス編成、学習指導の面での具体的なお話があります。

進学志向の強い学校では、学力向上のために先取り学習の体制を取り入れているのが特徴ですが、成績不振者に対するフォローは十分かどうか、そのための補習がどのように実践されているのかなどもチェックしたいところです。また、大学受験に対応するためのコース別学習が、いつから、どのような形で行わ

れるのかも大切なポイントです。その他にも習熟度別授業が行われているのかどうかも気になるところです。

さらに学習面とは別に、学校行事、修学旅行、海外研修、クラブ活動、カウンセリング体制など情操面での教育がどのように施されているのかもチェックしたいところです。どんなに素晴らしい進学実績を誇る学校であっても、子どもたちが生き生きと活動できるような配慮がなされていなければ何にもなりません。心の教育が叫ばれている昨今、特に学校側の情操教育に取り組む姿勢も志望校選定の重要な要素と言えます。

ここ数年で、様々な教育改革を断行する学校も増えました。共学化やコース制の導入、カリキュラムの変更や新校舎の建設など各学校によりアプローチは様々ですが、より良い教育を実現するための施策に取り組まれています。そこで、それらの改革が生徒の側に立った配慮が十分になされているか、自校の独自性や将来への展望を具体的に示してくれているかなどについても検討する必要があります。志望校選定の大事な要素には違いないからです。

## －進学実績の中身－

進学実績は各学校の教育成果の一端を示す要素であることは間違ひありません。ただその見方には注意が必要で、大学別の合格者数にばかり目を奪われてはなりません。進学の中身に目を向けることが重要であり現役、浪人の比率は注目していただきたいポイントの一つです。また、卒業生の総数にも目を向けてください。見た目の数字がどんなに大きくても分母である卒業生の総数が多ければ当然ということもあります。逆に、見た目の数字が小さくても分母が小さければ大変な合格率になることもあります。

さらに過去の数字と比較してみると、その学校の実績の伸び具合が分かるでしょう。すぐに大きく進学実績が向上することは通常ありません。しっかりとした進路に対する指導方針の下に成り立つものなのです。そういう意味では、各学校の大学入試に関する考え方や将来を見据えたキャリア教育といった要素までしっかりと確認していただく必要があると言えます。

大学付属校の場合は、系列の大学へどれくらいの推薦枠があり優遇措置があるかについての説明があります。ただし付属校であっても他大学進学に熱心、例えば条件を満たせば、系列大学への推薦権を保留し、他大学受験を可能としている場合などもあります。ですから進路に対しての学校側の姿勢をよく知る必要があります。

## －入試情報－

ここでの情報は、①今年度の入試結果、②来年度の入試要項、③各教科ごとの出題傾向に分けることができます。

今年度の入試結果では、実質倍率、合格最低点、各科目の平均点、補欠や繰り上げ合格の状況、合格者の手続き状況、併願校の状況、面接があればその方法と合否判定での重要度、2科4科選択入試の場合はその選抜方法、試験回数が複数回ある場合は優遇措置があるのかどうか、などについて資料をもとに説明

があります。

来年度の入試要項については決定されている場合は、入試日、合格発表の日時、試験科目、試験回数、募集人数などについて発表があります。

出題については、全体の傾向や難易度、どの分野が重視されているかなどについての説明があります。例えば、先生方が記述問題をどの程度重視しているのかなども確認しておきたいところです。先生方がどのような学力を持った生徒を求めているかが分かるからです。

### －先生方の熱意－

実際に6年間通わせる学校で直に接していただける先生方の熱意の程を確認するのも大切なポイントです。学校や先生方の事情よりも生徒第一で考えてくれるかどうかは一番大事な要素かもしれません。参観での先生方の活気が伝わってくる学校は、今後の伸びが期待できます。

### －在校生の態度－

これも大きなポイントです。どんなに先生方が立派な教育方針を話されても、肝心の生徒たちが沈滞していたり、落ち着きがなかったり、服装が著しく乱れているようでは、通うに値する学校とは言えません。生徒たちは生き生きしているかどうか、礼儀正しいかどうか、服装はきちんとしているかどうかなどはチェックしたいところです。

在校生がいる時間帯に校内見学を実施いただける学校であれば、授業の様子や生徒の表情をつぶさに見ることができます。見学が休み時間にかかっていたら、迷惑のかからない範囲で直接生徒に話しかけ、学校の様子について聞いてみるのもいいでしょう。

### －設備－

6年間を過ごすことになるかもしれない学校の施設、設備などを直に見ることも大切です。近年は新校舎の建設も多くあり、その建物からは各学校の個性が見られます。

学習において活用される図書室やコンピュータ室などの設備の充実度も重要な要素です。あまりの充実した設備に驚かされる学校もあることでしょう。しかしながら、これと同じくらい大事なポイントは普段過ごす教室や廊下、トイレといった設備がどうなっているのかと言うことです。在校生の生活態度が垣間見える部分と言えるでしょう。

### －周囲の環境－

校内だけでなく、学校の周囲も一度は歩いてみたいものです。駅から学校までの間に危険な地域はないかどうか、風紀上の問題はないかどうかを確認しておくべきでしょう。

近くにコンビニエンスストアなどがあれば、お店の人に「あの学校の生徒たちはどうですか」とちょっと聞いて見るのも、周りの環境を知る上では有効な手段と言えるかもしれません。

## －交通の便－

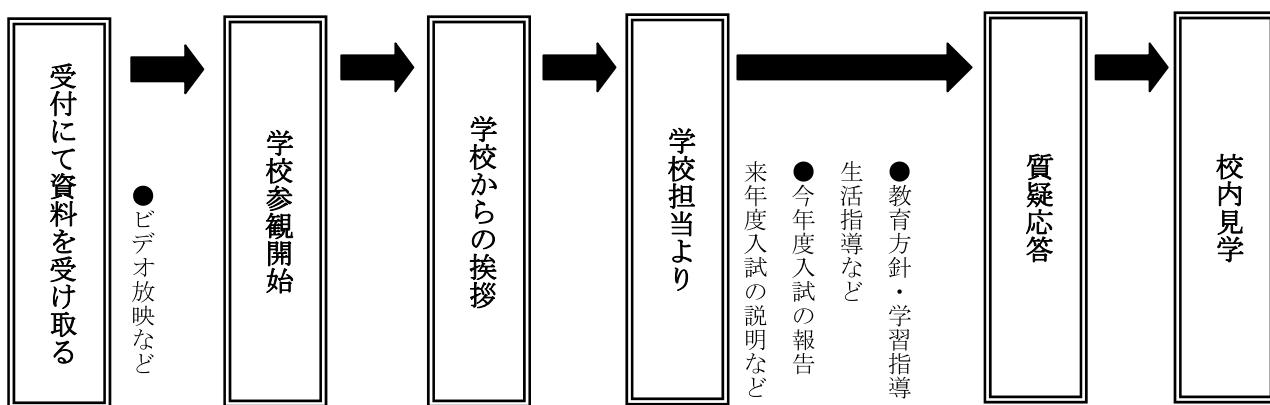
学校参観に出かける日には、乗換えや歩く時間も含めて家を出てから学校までどのくらいかかるのか、子どもの負担度を確認しておく必要があります。

私立の学校では一部ですが、通学時間を制限しているところもあります。通学時間がかなり長い場合は、制限がないかどうかを質問しておきましょう。

## －参観スケジュール－

学校参観の一般的なスケジュールをご紹介します。(学校によって異なります。)

授業参観につきましては、在校生の授業の妨げとならぬようご配慮願います。一般的には教室の外(廊下など)から授業の様子をご覧いただく場合が多くなりますので予めご了承ください。



### ■参観のマナー■

#### ●質疑応答では個人的な質問は禁物。

説明会の締めくくりとして、多くの学校で質疑応答の時間を設けています。カリキュラムや進路、生活面などについて積極的に質問していただきたいと思いますが、個人的なことや大勢の前で聞きにくいことは、説明会の後で聞きましょう。校内を引率してくださる際にさりげなく、その先生に聞いてみるのも一つの手段です。

#### ●開始 15 分前には到着するようにしましょう。

当日はあまり早過ぎるのも考えものですが、開始 15 分前には到着し、10 分前には座席に着ける余裕が欲しいものです。開始時間ギリギリでは、先生のお話に集中できないことにもなりかねません。また開始時間が遅れるなど先生方にご迷惑をおかけすることになります。

#### ●学校のアンケートにはなるべく回答しましょう。

学校によっては、資料の中にアンケート用紙が入っている場合があります。これは入試の際、合否には関係ありませんが、記入して提出した方がよいでしょう。住所や氏名を記入すれば、今後の学校行事や学校情報を伝えてくれる場合があります。

#### ●「参観ノート」をつくりましょう。

校長先生のお話のポイント、入試の変更点、文化祭などの日程、交通手段、施設、環境面などについてメモのようなものでも構いませんので記録しておきましょう。皆様がご自身で感じた情報は、今後志望校を絞り込んでいく際の参考となり得るからです。

#### ●参観中「携帯電話」の電源はお切りください。

#### ●ビデオ撮影、写真撮影はご遠慮ください。

#### ●ハイヒール（かかとの尖った靴）での参加はご遠慮ください。